

中島 純一 氏 学位審査結果の要旨

主査：権 雅憲

副査：螺良 愛郎、新宮 興

胎児の骨盤位や腹部手術の既往例に対する選択的帝王切開は、本邦では妊娠 37 週か 38 週に施行されることが多い。関西医科大学附属枚方病院で選択的帝王切開された胎生 37 週(390 例)と胎生 38 週 (294 例)の新生児を対象とし、この両群における NICU 入院率ならびに新生児有害転帰の発症頻度の差異を検討した。NICU 入院率、低出生体重、呼吸障害、低血糖の発症頻度は、37 週で有意に高く、呼吸障害における補助換気使用率も 37 週で有意に高かった。ロジスティック回帰分析では、呼吸障害は妊娠週数が独立危険因子であり、低血糖は出生体重が独立危険因子であった。

本研究は、妊娠 37 週での選択的帝王切開が NICU 入院率や呼吸障害の発症リスクを増加させ母児分離や医療費の増加をもたらすことを示し今後の臨床応用に寄与すると考えられ、学位に値すると判断した。